

令和5年7月15日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 令和5年度 第7回

おはようございます。只今、神藤評議員会議長から開会挨拶がありました。コロナに関しての提言でしたので、先ずそこからお話を始めましょう。

コロナについては、政府のご都合主義によってメディアは動いているし、動かされていますから、中身は変わらなくても報道の仕方では印象はまるで変わります。今は第9波ということですが、第何波と呼んだ方がメディアとしては都合がよいので、政府の発表をそのまま載せているのでしょう。今現在、コロナは拡大中であり、一層酷くなるだろうと思っています。政府は発表の仕方でもうコロナは終わった、一段落したからもう罹らないだろう…そう錯覚させるようにしていると思っています。

私は当初から、コロナは死亡しないことが肝心だと申し上げています。その前にコロナに罹らないことが肝心です、罹ると大変です。ワクチンを何回打っても、何度も罹っている人が現実にはいますね。コロナに罹らないためにはどうしたら良いか、前から申し上げているように、よく食べ・よく眠り・よく動くことです。体力の弱っている時にコロナに罹ると、やはり死亡するリスクが高くなります。

コロナは一段落したといっても、中身はかなり怖い感染症だと思っています。ですから罹らないことが肝心で、電車とか人混みではマスクをした方が良いと私は思っています。但し、マスクについては、ウイルスが通過してしまうようなものが多いですから、自分の使っているマスクがどれぐらいの機能を持っているか、よくご覧になってから選ぶとよろしいでしょう。

更に、外から帰ったら、一番良いのはすぐにシャワーを浴びることだと思っています。また、着ているものを外に干してから家に入れるようにすると良いでしょう。外に干す時間がなければ、着ているものをよく外で叩いて、ウイルスがついているものと仮定して、ウイルスを払ってから家に入るのが良い。他にも、以前に言われたことをもう一度思い出して、日々気を付けて過ごして戴きたいと存じます。

先日、池上彰さんの本が目についたので買って読みました。以前から池上さんがどのように新聞を読んでいるのか、どのように活かしているのか興味があったので、立ち読みを

しました。ページをめくると、「私の人生はこの一冊で決まりました」という表現があって、池上さんが自分の人生を決めた一冊とは何だろうと思って買いました。

池上さんは小学生の時、地方新聞記者の活躍を描いた『続 地方記者』（朝日新聞社）という本を読んで、自分も地方記者になりたいと思ったのだそうです。陽明学で言えば、志を立てたというところです。大学を出てNHKに入り、希望通り地方へ記者として配属されます。地方局や本社社会部で16年間記者としての仕事をし、その次にテレビへ配属されます。そこで2005年まで16年間、キャスターとして「週刊こどもニュース」などの番組を担当しました。その後、フリーの記者になるわけですが、「16年間テレビの画面に顔を出し続けていたら、自分の地方記者になりたいという最初の志がどんどん薄れてくるのを感じたので、このまま定年を迎えるのは嬉しくないと一念発起した」と書いてありました。そうすると世間は「週刊こどもニュース」で培ったノウハウをそのまま民法でも使いたいということで、今のように引く手あまたの状況になっていったようです。

私が気になっていた池上さんが新聞をどう読んでいるのかですが、毎日14紙の新聞を読んでいるそうです。朝日・毎日・読売・日経・東京・産経・朝日小学生新聞・毎日小学生新聞の他、地方新聞（河北新報・信濃毎日・京都新聞・中国新聞・高知新聞・大分合同新聞）を毎日送ってもらい、あとは電子版でニューヨークタイムズ・ワシントンポスト・ウォールストリートジャーナルを読んでいるとありました。

木内信胤先生も新聞を3紙とっておられ、毎日、赤鉛筆を持って丁寧に端から端までチェックされ、読んでおられました。

池上さんの読み方は、朝20分くらい見出しだけをひと通り目を通すのだそうです。そして夜、1時間から1時間半かけてもう一度見直しして、気になるものがあれば見出しに続くリード、興味が湧いたら更に本文を読むのだそうです。

その後に、これは思う記事はページごと破ってファイルに入れて別のところに置く。そうやって「寝かせる」のだそうです。というのは、1週間や10日のうちに、あの記事は嘘だったとかミスだったという事が必ず出てくる。また、時間を置いてチェックすることによって、ちょっと違う意味が含まれているとか、自分の解釈は浅かったとかを判断出来る。そのために寝かせるということをするのだそうです。池上さんの新聞の活かし方は、なるほどそういうことかなと分かりました。

また、本の中で気になった文章がありました。よく新聞社は「客観報道を旨とする」とか「木鐸を旨とする」という表現をしますが、元新聞記者だった池上さんが「新聞は客観報道を装っているから、私はそれに氣をつけている」と書いていました。

「客観性を装う」・・・私はこういう表現を初めて見ました。そこから、今の新聞はフ

エイクニュースで埋まっているから、フェイクニュースの海の中をかき分けて読むのだ、というニュアンスが伝わってきました。フェイクニュースだらけの新聞を、寝かせることによって選り分ける事ができる。そのように池上さんは読んでいました。

もう一つ申し上げます。以前、朝日新聞が従軍慰安婦について誤報をし、後日、間違いだったと訂正したことがありました。当時、池上さんは朝日新聞に「新聞ななめ読み」というコラムを連載していました。連載にあたっては編集部から「何を書いても自由、朝日新聞の記事の批判も歓迎する」と言われていたので、「朝日新聞は誤報を認めたが謝らなかった。申し訳ありませんと書くべきだ」という内容を書いたそうです。しかし、その原稿は差し止められてしまいました。

そのことで社内からも上層部批判が出て、ツイッターで書かれたり、世間にも朝日新聞はけしからんという批判が広がり、どの新聞も皆同じだろうという新聞批判の合唱になりました。池上さんは、申し訳ないことをしたと思ったそうですが、自分の意見は変えずに、原稿をそのまま出したという経緯がありました。それがきっかけで、朝日新聞は大幅に部数を減らしたようです。

ということで、中斎塾フォーラムでは毎回、「嘘はつかない」と言っているように、やはり嘘はつかないのが良いと感じます。

## 徳

では、論語に参ります。今日のテーマは「徳」についてです。「徳」という言葉は論語の中になんかありますが、その中で五つだけ選んで出しました。ですから「徳」について気になった方は、どうぞ論語を読み直しして戴きたいと思います。

素読を致しますので、私の後についてお願い致します。

① しいわ子曰く、まつりごと政をな為すにとく徳を以てすれば、たと譬えばほくしん北辰のそ其のところ所にい居てしゅうせい衆星の之これにむか共うがごと如し。

(為政第二・1)

政治をする上で道徳が大事である。孔子は北極星に喩えて説明しています。北極星は天の中心にいて動かない。あらゆる星々が北極星を中心にして、取り巻いて動いているように見える。これこそ、人間が政をする上での良いお手本になっている。

孔子は星座の運行を見て、星々の動き、それらの調和は素晴らしいと感じ、地上でも同じようなことが政において出来ないものかと感じたわけです。

今の日本の政治は如何なるものか、北極星のような政治家がいるであろうか、と考えな

がら、ここを読めば良いと思います。

このところマイナンバーに関するトラブルが世間を騒がしています。今朝の新聞に、気に入らない記事を見つけました。2016年1月から23年の6月までの間に交付されたマイナンバーカードは9306万枚、現時点で保有されているのが8816万枚で、490万枚が廃止されていたという記事でした。廃止された理由に、本人辞退という言葉は一文字も入っていません。本来なら、「本人が辞退した結果、廃止せざるを得ないから廃止した」という文言があつてしかるべきですが、その解説がない。自分たちの都合のよさそうな廃止の理由しか書いていません。これでは、とても北極星のような感覚ではありません。

皆さんにお聞きします。マイナンバーカードお持ちの方はどれくらいおられますか？

・・・だいたい皆さんお持ちですね。

では、確信犯でマイナンバーカードをお持ちでない方は、どれくらいおられますか？

・・・数名おられます。

前から申し上げていますが、私はマイナンバーカードを持つ事が義務であると法律で決められるまでは、持たないと決めています。

私は物事を判断する上で、「判断の三原則」を常に言い続けております。マイナンバーカードの本質、マイナンバーカードを発行した本当の目的、狙いは何かを考えると、明らかに国民から税金をもれなく沢山取りたいということだと思っています。

歴史的に見ると、今回のマイナンバーカードと同じような動きを、日本はかつてしています。近いところでは終戦直後、財産を全て洗いざらい書き出させ、それによって酷税をかけました。また、江戸時代には徳政令というものを出しています。

歴史を遡ると、古事記には有名な話があります。仁徳天皇が山の上から眺めると、民の竈の煙が立っていない。それを見て、3年は税を免除すると勅令を出した。天皇の御殿は雨漏りがするほど壊れてしまったけれども、その間、民は一生懸命自分たちの仕事に精を出し、だんだん暮らしも良くなっていった。再び天皇が山の上から見渡すと、民の竈から黒々と太い煙が立っている。それを見た上で暫く期間を置き、再び課税をするようになったという故事です。

渡部昇一さんは著書『税高くして国亡ぶ』の中で、ローマ帝国が滅びたのは9割もの酷税を課したからである、と書いています。

国が疲弊してきた時、無知・無能・無力な政治家は税金を取ろうとする。実際に酷税をかける。しかし、それより遥かに人徳のある天子・君子は、税金を免除する。今の日本の国の政治家は、少し歴史を調べなさい！ と私は思っています。

大局的に見ます。今日の次世代経営者勉強会は、「ベーシックインカム」がテーマだそうですね。ベーシックインカムという言葉は私は知りませんでしたので、調べました。何のことはない、ばら撒きです。日本同様にあちこちの国々で今、ばら撒きをしています。日本維新の会はベーシックインカムの導入を標榜し、次の衆院選で当選者を増やす手法に使い出しています。コロナが始まった頃、国民全員に一律 10 万円の給付金をばら撒きました。それを大掛かりにやろうという考え方です。悪用とは言いませんが、下手な手の打ち方をしているなど感じています。

人徳のある人物が上にいた場合、何をするか。マイナンバーカードから、ちょっと話が広がりました。

② しいわ 子曰く、くんし 君子 とく おも 徳を懐え、しょうじん ど おも 小人 くんし けい おも 土を懐う。君子 しょうじん けい おも 刑を懐え、小人 けい おも 恵を懐う。

(里仁第四・11)

「君子」は主君、お殿様と考えれば分かりやすいと思います。「土」は、故郷です。

君主は道德の世界を夢見るが、庶民は生まれ故郷を懐かしく思う。

君主が政をする上で道德ではなく、法律・刑をもって庶民を扱おうとする。庶民は法律で罰せられるよりは、恩恵が欲しいと思う。

立場によってまるで考え方が違うと思いますが、これを決まりきった形で受け止めない方が良いでしょう。やはり為政者は、人を動かすのに罰することを前提にはいけない。あくまでも道德で人が動くのが良い。一方、庶民は恩恵ばかり求めてはいけない。そうお読み下さい。

③ しいわ 子曰く、てん とく われ しょう 天 徳を予に生 ぜり。かんたい そ われ い か 桓魋 其れ予を如何にせん。

(述而第七・22)

孔子が 56 歳の時です。衛の国から宗に向かう途中、桓魋に襲われました。桓魋は、孔子の弟子である司馬牛の兄で、宋の国でかなり権勢をふるっていました。孔子が宋に来れば、自分は左遷される可能性がある。そこで孔子を殺そうとして襲って来たという状況です。

この場合の「徳」は、素晴らしい人徳です。その人徳によって、孔子は天に生かされているという実感を持っている。そう読み取れば良いでしょう。

天が我に徳を与えてくれた。それに呼応するかのよう自分の体の奥深いところから、道德の素晴らしいエネルギーがほとばしるようになっている。そういう人物である私に向

かって、桓魋ごときが私を殺せるものか。

・・・自分は天から使命を与えられてこの世に生まれた人間なのだから、あの邪悪な桓魋が私を殺せるものかと孔子がうそぶいている、珍しいところです。芝居であれば、見得を切っているシーンだと感じます。

このように論語を読んで目の前に映像が出てくる、情景が浮かんでくるような読み方が素晴らしいと思っております。どうぞ、そのようにお読み下さい。例えば、②の章句「君子 徳を懷えば」のシーンでは、私は西郷隆盛が浮かびました。「君子 刑を懷えば」では、江藤新平を思いました。両者とも非業の死を遂げています。

③の章句「桓魋 其れ予を如何にせん」の所は、板垣退助が浮かびました。板垣退助が暴漢に襲われた時、「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだという話は有名ですね。しかし、あれは本人は言っていないのです。重傷を負った板垣が叫ぶというシーンは格好いいですからね。それはそれで、如何にも自由民権運動の指導者として良いのだろうと感じています。

④ しいわ きょうげん とく ぞく 子曰く、郷原は徳の賊なり。

(陽貨第十七・13)

「郷」は俗社会、「原」は「えせ君子」と捉えます。「えせ君子」という解釈は、吉川幸次郎先生が言われた言葉で、それを貝塚先生が名訳であると引用し、私も良い表現だと思っております。

俗社会における「えせ君子」は道徳の盗人だ。とんでもないことだ。今の世の中は、えせ君子（偽物）だらけだ！ と孔子が非難していると理解しましょう。

⑤ しいわ とくあ もの かなら げんあ げんあ もの かなら とくあ じんしゃ かなら 子曰く、徳有る者は必ず言有り。言有る者は、必ずしも徳有らず。仁者は必ずゆうあ ゆうしゃ かなら じんあ勇有り。勇者は必ずしも仁有らず。

(憲問第十四・30)

孔子が言うには、徳のある人は必ず良い言葉を言うものだ。ただ良いことを言うからといって、必ず徳があるとは言えない。

仁者は必ず勇気があるけれども、勇者だからといって必ず仁があるとは限らない。

この文章自体はよくある話ですから、そうだねえと受け止めていただければ良いでしょう。

## 恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。背筋を伸ばすと健康に良いですから、背筋を伸ばしたところでお聞きします。今年も半年過ぎました。半年を振り返ってお考え下さい。

- 良い日が比較的続いている方
- 嘘はつかないし、嘘もつかれない、そういう日が比較的多かった方。

比較的という言葉をつけてお聞きすると、手が挙がりやすいですね。物事はきちっと隙間なくやると、何か苦しい。どこ遊びがあった方が良いと思います。

- 有難うとよく言ったし、有難うともよく言われた方。
- 身体の手入れをよくやっている方

日頃から身体をほぐしたり運動したりして、身体のケアをすることは大事です。それと同時に時々お医者様のところに行って、自分で気がつかないところの確認をする。それも身体の手入れだと思います。

最近私は自分の身体の疲れ具合を考えると、政府が後期高齢者という不愉快な名前をつけましたが、まんざらでもないなと思っています。身体を構成している組織は、やはり普通に歳を重ねるのですね。物を持ち上げた時、前は軽く持てたものが、鍛錬しようがしまいが関係なく、握る力とか握りしめて落ちないようにする力が徐々に弱ります。自分で意識的にここを鍛えようと思っている部分は頑張っても、やらない部分がどこかにあれば、そこがアキレス腱となって残ると思います。自分で分かる身体の手入れの他にも、あちこちに手入れをしなければいけない部分が出てくる。それにはやはりお医者さんが必要だと思います。

- 自分磨きをよくやっている方
- これも主観で、ぱっと手を挙げて下さい。皆さん、順調に手が挙がりました。
- 昨晚眠る時に、明日以降を過去形で考えた方

## 令和5年を考える—癸卯

では、テーマに参ります。

### 繁栄か没落、岐路の年

何度も申し上げていますが、現在はもう完全に衰退をし続けているところ、没落の坂道を転げ落ちています。このまま坂道を転げ落ちて行ったら、最終的に止まります。海の中でも、海底まで沈めば止まりますね。

そうすると、止まった時に何をすれば良いか、我々はそれを考える必要があります。それには先ず、今の世の中がどうなっているかをよく見ておく必要があるわけです。

### ・コロナは死亡しないことが肝心

今の世の中がどうなっているか、ということでコロナに絡めてみれば、コロナは現在、拡大の一途になっています。そういう危機感を持ってコロナに相對することが必要になる。とにかくコロナに罹らないことが肝心だと念押し致します。

### ・今年には騙されないように・・・ロシア・ウクライナ戦争から派生するもの

今、ロシアは追い詰められています。追い詰められると、窮鼠猫を噛むような動きにならざるを得ないでしょう。

5月20日、ゼレンスキー大統領が広島で行われたG7サミットに参加するため来日しました。ゼレンスキー大統領の来日は急に発表されました。なぜ日本のマスコミは報道しなかったのでしょうか。ゼレンスキー大統領が来ると分かれば、とんでもないことになるからです。卵一つ投げ込まれただけでも、国際問題になりかねませんから、とにかく政府関係者は一所懸命隠していたわけです。警察庁がゼレンスキー大統領に対してアメリカ大統領並みの警戒網を敷くようにという指令を出したのは、ゼレンスキー大統領が現れる僅か2時間前ということですから、徹底的に秘密主義を貫いたわけです。ゼレンスキー大統領が日本にとってどれぐらいの重みがあるのかを感じました。

ゼレンスキー大統領は、一生懸命あちらこちらの国を動き回って支援を要請し、お金や武器をかき集めなければ自分たちはあつという間に捻られると思っているから、そういう動きをするわけです。

今は、人類が減びる引き金を引きかねないところにいると思っています。大きな流れとしては西洋文明が減びるという状況下に来ているので、今回の領土争いが、人類の足掻きの一つとして現れたというふうに本質的には見えます。

経済的にも人類はもう行き詰まっています。グローバリズムが終焉を迎え、アメリカが坂道を転げ落ちていきます。今のグローバリズム、世界文明なるものが終焉を迎えると、その次に何が生まれるか。

そうなると、世界は多極圏文明になると考えられます。一つの文化を同じくする国が文明も同じくすることによって、経済的な要素も踏まえて新しい文化圏を作る。その文化圏は七つか八つぐらいに分かれると見られます。その中で日本は、独自の日本文化圏・日本文明圏が生まれる。大体20年から30年ぐらいのスパンだと考えられます。

今、我々は坂道を転げ落ちていますが、底についたら、そういう方向へ歩き始めること



になるはずですが。その時モデルになるのは、世界全体で眺めると、日本の江戸時代末期だと考えられます。日本の江戸時代末期は自給自足をずっと環状で回していました。それが手本になるでしょう。

そうすると我々がやらなければならないものは、現在世の中で起きている様々な問題に対して、自分たちで手掛けなければならないものと、他国とある程度手を繋いで互惠関係になるような文化圏同士での付き合いをしなければならないと思っています。

先日、世界を席卷する多国間企業と言われる巨大IT企業に対して、各国が課税出来るようにするというルールが大筋でまとまりました。2025年の発効を目指すということです。今まではその国に拠点がなければ税金をかけられませんでした。今回の決定は、国内に拠点がなくてもそこで仕事をして利益を上げていけば、その利益に対して税金かけられるようになるわけです。日本円にして3.1兆円以上の売上げがあり、利益率10%以上の企業については、利益の25%の税金をかけることで、138ヶ国が合意したと報道されていました。

遅くなったという感じがしますが、いずれにしても巨大IT企業はここで少しストップをかけられる状況になると思います。そういった会社が130社程度あるということです。そこら辺を考えると、色々ところで経済のあり方も大きく変わるでしょう。

更に、生成AIなるものがどんどん力を増しています。今は、良いところもあるし悪いところもあるというスタンスですが、悪いところがあったなら、人類は捻り潰されてしまいます。生成AIをどう見れば良いのか考えると、現時点では宇宙人と似たようなものだろうと感じています。宇宙人の考え方は、人間には分からない。ただ、生成AIがどんどん進んでいくと、人間と同じ考え方になるのではないかという気がしています。

これからの世の中は、化け物のような生成AIと、デジタル革命も先が見えません。生成AIがどう化けるかによって、DX化を進めていく方向も相当変わってしまうと思います。映画やSFの世界になってしまうけれども、人間の体がなくなり頭だけで生きていくような世の中が来ないとも限らないという気がしています。

そうすると、どこかで人間が大きく脱皮しないと次の世代は生き残れないのではないかと、生きていけないのではないかと、そんな気がしています。

そういう世界に繋がりそうな、危なそうな話を致します。

安倍元首相が亡くなって1年経ちました。あの銃撃事件によって、相当大きく時代が変わったという印象を多くの日本国民は持ったと思います。今まで当たり前だと思っていたものを、もう一度見直しをしなければいけないという気がします。海の中も、もう様

相が変わっています。気候変動が当たり前になりました。雨の降り方にしても線状降水帯など、従来とまるで違う降り方になっています。

ですから今現在、個人としてやっていることの見直しが必要です。会社を経営している方、会社に勤めている方は、会社という組織が今の形態で良いのか見直しをしなければいけない時期だろうと思います。

国家も同じで、我々の国はこれで良いのか、特に政治を預かっている者は、この政治の仕方で良いのだろうかを見直しをする必要があります。そう考えた小さなきっかけは、先日行われた群馬県知事選挙です。投票率は30%を下回りました。私は今まで選挙には極力行っています。ただ今回は投票に行く気がどうしても起きませんでした。

考えてみると、日本の国も混乱しているし、世界各国も混乱している。こうだ！と思う基本的な考え方が無くなった。そうであれば、ゼロに戻って、人類にとって必要なものは何か、国家にとって必要なものは何か、自分自身にとって必要なものは何か、会社にとって必要なものは何か、家庭は何がベースなのか・・・等々、もう一度考える必要があると思います。「生まれ変わり、死に変わりして、また蘇る」という心境になっています。

お時間が参りました。最後に、年齢・寿命についてお話致します。

季刊誌「知足」の最新号（第66号）に、真向法協会顧問の佐藤良彦先生との鼎談が掲載されています。佐藤先生には中斎塾フォーラムの顧問もお引き受け戴きました。佐藤先生は10月で90歳を迎えられるそうですが、澁漣とされ大変お元気です。

皆さん平均寿命はご存知だと思いますが、男性が81歳、女性は87歳です。健康寿命は、男性は72歳ですから、人さまに何らかの介護をして貰わなければならなくなってから、お亡くなりになるのは9年後という数字です。それを軽く超えておられる方は、自分は大変若い、健康でいいぞ！とと思っていただければよいですね。

また、最多数寿命は男性は85歳ということです。85歳になると、お仲間が一番多く亡くなるという数字ですから、85歳になっていなければ、そこまでは軽く行くなと思っていただければよいわけです。

女性の場合は健康寿命が75歳、平均寿命は87歳と、男性を遥かに凌駕しています。最多数寿命も90歳ですから、女性の方がずっと長生きということです。これは令和2年に調べた調査、最多数はもう少し前の数字です。

この間、或る医療関係者の集まりで、京都大学の総長が「老いと寿命」について講演をされました。お医者さんはこういう考え方をするのかと思ったのですが、「老いは老化で

ある。寿命とは自然死である」という前置きがあり、「治療できるものは全て病気である」と言っておられたのが印象に残りました。「老いに向かってアンチエイジングが盛んであるが、我々はせつせと治療をしている。治療が出来ている間は、すべて病気である。病気と目すものは全て治療できる」・・・ここら辺は、お医者さんは全て治療できるものになりたい、という願望のようなものを感じました。更に、「寿命とは、まだまだ我々の知恵では決められない。未定の確定である」とも言っておられました。ということは、どこまで寿命が延びるか分からない、ということだと受け止めました。

我々は何歳まで生き続けられるか分かりません。有難いなと思って、今日の話を終了に致します。

**【質問：山崎理事】**マイナンバーカードについて、色々なトラブルが報じられています。私は仕事に必要なのでマイナンバーカードを既に取得していますが、健康保険証と紐付けるとかはしたくないと思っています。紙の保険証が無くなっても、資格確認証というのを持っていれば大丈夫だという情報もあります。その辺の所を解説戴ければ有難いと思います。

**【回答】**マイナンバーカード健康保険証を紐付けるということですが、私は政府の悪あがきだと思っています。私も後期高齢者ですから、最後の最後まで紙の健康保険証を持っていようと思っています。

政府はマイナンバーカードを増やしたいために、運転免許証を紐付けましょう、健康保険証を紐付けましょう・・・その他、紐付けられるものがあればどんどん紐付けて、国民全部にマイナンバーをつけたいという思惑でやっているわけです。しかし、健康保険証等との紐づけを拒否し続けたからといって、今の法律では逮捕は出来ません。変わるべきものを用意しなければならないわけで、それをやっている間に、また辞退する人がどんどん増えていき、どこかで方向転換せざるを得なくなるだろうと思っています。

方向転換しない場合でも、一体化は拒否できるだろうと思っています。嫌だという人間が一定数残りますから、それは無視できないと思います。また、そういう考え方を推進する政党がそのうち生まれるでしょうし、今の既成政党でもそういう方向に行くものが出てくると思います。

怖いのは、ヒトラーが出て来た時と同様の空気を感じます。ヒトラーが出てきた時は、唯々諾々としてそれに従うという世論が構成されました。ですから日本はそういう方向にならないように、マイナンバーも進めてもらうのが良い。今、そんな気分しております。